NPO 法人ふくしま 30 年プロジェクト 平成30年度活動事業報告



福島県福島市飯坂町字一本松 11-7

日にち	主な事業内容						
平成 30 年							
4月15日	生活に密着した放射能測定プロジェクト開始(タオル、T シャツ、掃除機の埃、土壌など) 						
4月16日	平成 30 年度 ホットスポットファインダー測定開始						
4月19日	「しんきんの絆」復興応援プロジェクト全体交流会出席						
47191	(宮城県仙台市)						
5月8日	事業·会計監査						
5月11日	理事会						
5月12日	「東北ジャム 2018 in 福島あだたら」出店(~13 日)						
37 12 Ц	(二本松市)						
5月12日	報告会 in 郡山「福島のいまとエネルギーの未来」出席						
3 A 12 D	主催:FoE Japan(郡山駅西ロビッグアイ 7F)						
5月19日	カナダからの見学者に福島市内を案内						
5月20日	山梨県からの学生の見学者に福島市内を案内						
5月25日	通常総会、臨時理事会						
5月26日	木村真三氏勉強会「8年目の福島と32年目のチェルノブイリ」(アオウゼ 和室)						
6月2日	山形県大江町 やまさぁ―ベ田植えキャンプ (~3日)						
6870	カーロふくしまおはなし会「知りたい・聞きたい保養のおはなし」参加						
6月7日	主催:公益財団法人日本YWCA (カーロふくしま)						
6月8日	「NPO/NGO の組織基盤強化のためのワークショップ」参加						
0 7 0 0	主催:認定 NPO 法人杜の伝言板ゆるる (宮城県仙台市)						
6月9日	海外版サイト作成開始 (~平成 31 年 3 月)						
6月14日	「ゆうきの里 東和 ふるさとづくり協議会 公益財団法人 日本農林漁業振興会長賞受賞祝賀会」						
0 Д 14 Ц	出席(二本松市東和文化センター)						
6月17日	山梨県からの学生の見学者に福島市内を案内						
6月21日	「ままトーク@ふくしま Vol.01」参加 主催:NPO 法人ビーンズふくしま (みんなの家セカンド)						
6月25日	カリフォルニアからの見学者が来所						
6月28日	ふくしまくらす交流会						
0 Д 20 Ц	「震災後の生活について考えよう - 生活に密着した放射能測定 2018 - 」(みんなの家セカンド)						
6月29日	しんきんの絆 第5回助成完了報告会出席(宮城県仙台市)						
6月30日	山形県大江町 やまさぁーベ稲刈りキャンプ (~7月1日)						
7月5日	イギリスから科学技術社会論(STS)に関しての取材						
7月7日	「福島にくらし 子どもを育てる」講演 主催:名古屋YWCA (愛知県名古屋市)						
7月8日	東京「はちみつの会」の方々が見学						
7月9日	JT NPO 応援プロジェクト第 2 期第 4 回助成贈呈式参加(宮城県仙台市)						
7月13日	ホールボディカウンターを含む測定室の改装開始(~10月)						

	 ふくしま 30 年プロジェクト内での『「図説」17 都県放射能測定マップ+読み解き集(みんなのデータサ				
7月13日	イト)』の作業開始(~11 月)				
7月15日	「福島帰還者との交流会 in むさしの」参加 主催:むさしのスマイル (東京都武蔵野市)				
	ふくしまくらす交流会「お母さんが名医になる方法-子どもたちのより良い成長のために、日々できる				
7月16日	こと」(アオウゼ 和室)				
7月23日	那須町保健センター ファントム校正(~25日)				
7月26日	スイス、チューリッヒ芸術大学の学生が来所				
	第 4 回『原発と人権』交流集会 in 福島				
7月29日	原発災害と政策転換分科会 出席 (福島大学)				
7月31日	ふくしま未来基金完了報告会出席(福島市)				
8月5日	牛山元美医師勉強会「甲状腺がんの今」(サンライフ福島 大研修室)				
8月7日	イギリスから科学技術社会論(STS)に関しての取材				
8月20日	「ニュース教室」参加(ウィズもとまち)				
8月21日	土田英順チャリティコンサート手伝い 主催:NPO法人青いそら (アオウゼ 視聴覚室)				
8月25日	奈良県からの高校生見学者が来所				
タケダ・いのちとくらし再生プログラム:テーマ型研修「組織運営に望ましい財源とは」参加8月30日					
0 Д 30 Ц	(岩手県盛岡市 ~31 日)				
9月8日	ふくしまくらす交流会 発酵ワークショップ Vol.08				
37,01	~ 風と木の智恵子さんに教わる美味しい玄米甘酒 ~ (カフェ・ギャラリー 風と木)				
9月21日	臨時理事会				
9月26日	フクシマコミュニティづくりプロジェクト参加(郡山市 ビッグパレット福島)				
9月28日	ままカフェ「食と放射能に関するお話し会」参加 主催:ふくしま子ども支援センター				
0 / ј 20 Д	(福島市保健センター)				
10月5日	臨時総会				
10月6日	山形県大江町 やまさぁーベ稲刈りキャンプ(~7日)				
10月15日	こども放射線ワークショップ 2018 (サンライフ福島 大研修室)				
10月19日	測定室内ファントム校正(~22 日)				
10月21日	ふくしまくらす交流会「お母さんが名医になる方法-子どもたちのより良い成長のために、日々できる				
,,,	こと PART2」(サンライフ福島 大研修室)				
11月4日	「どう伝える?福島のこと」参加 主催: FoE Japan・ハインリヒ・ベル財団 (アオウゼ 大活動室)				
11月6日	ドイツからの見学者が来所				
11月9日	「ままカフェ mini」参加 主催: NPO 法人ビーンズふくしま(みんなの家セカンド)				
11月16日	「第二回みんなの文化祭」参加 主催: NPO 法人ビーンズふくしま(みんなの家セカンド)				
11月18日	後藤忍准教授勉強会「記録と記憶」コミュタン福島と震災遺構 (チェンバおおまち 会議室)				
11月23日	東和 WBC 第 12 回測定 (~29 日)				
11月23日	『「図説」17 都県放射能測定マップ+読み解き集』 発送作業開始				

日にち	主な事業内容				
11月26日	ベルギー、ルーヴェン大学の社会学博士課程の方が取材で来所				
11月27日	カナダからの見学者が来所				
12月4日	「タケダ・いのちとくらし再生プログラム」東日本大震災における復興支援活動報告会 参加				
12 /] + []	(宮城県仙台市)				
12月8日	第4回 福島の現状を知り、語り、考える会「未来へつなげるために 今できること」(専修大学)				
12月11日	スタンフォード大学教授が来所取材				
12月15日	清水奈名子准教授勉強会「原発事故災害とジェンダー格差」(サンライフ福島 大研修室)				
12月20日	コミュタン福島 + 東京電力廃炉資料館見学ツアー (三春町、富岡町)				
12月21日	「W20(ダブリュトゥエンティ)JAPAN 国内対話集会・東北会場 in 仙台」参加(宮城県仙台市)				
12月22日	「埼玉自主避難者団体交流会 in ハワイアンズ」参加 (いわき市)				
12月28日	臨時理事会				
平成 31 年	沖縄・球美の里保養ボランティアスタッフとして参加 主催:NPO法人沖縄・球美の里				
1月2日	(沖縄県久米島町 ~9日)				
1月20日	「赤城修司個展 Fukushima Traces, 2018」(東京都渋谷区 ~21 日)				
2月3日	「オーガナイジングワークショップ」参加(チェンバおおまち)				
2月5日	「ふくしま志高塾」プロジェクト・プレゼンテーション大会 参加				
2 月 3 日	主催:公益財団法人パブリックリソース財団 (福島県立図書館)				
2月16日	ふくしまくらす交流会「発酵ワークショップ Vol.09 漬物名人高橋トク子さん直伝 白菜キムチつくり」				
2 A 10 L	(サンライフ福島 第一講習室)				
2月23日	おもいで館雪まつり 主催:チーム大貫 [共催:NPO法人ふくしま 30 年プロジェクト]				
2 A 23 H	(山形県川西町 ~24 日)				
2月23日	土田英順チャリティコンサート手伝い 主催:NPO法人青いそら (じょーもぴあ宮畑)				
2月25日	JT NPO 応援プロジェクト第 2 期第 4 回助成中間報告会参加(宮城県仙台市)				
3月3日	ふくしまくらす交流会『未来に伝えたい「くらし」をかんがえる』 (カフェ・ギャラリー 風と木)				
3月9日	第 2 弾 しんちゃんに聞こう!「いまさらきけない」ホウシャノウのはなし				
3790	いまさらきけないプロジェクトとの共催(郡山市労働福祉会館 中ホール)				
3月11日	宮崎県からの学生見学者が来所				
3月16日	みんなのデータサイト総会及び講演会「伊達市被曝調査を考える勉強会 + ベルギー出張速報」				
07101	(東京都 国立オリンピック記念青少年総合センター ~17日)				

活動報告

●食品·環境放射能測定

食品・環境放射能測定については、トータル測定数が 335 件となり、平成 29 年度と比較すると 276 件減となっています。【表 1】理由として、「生活に密着した放射能測定」「流通品測定プロジェクト」といった、測定が長時間となる精密放射能測定が主体になったことと、ADR を行なう団体からの環境検体測定が一段落したことが影響しています。

測定検体の傾向として、前期は「生活に密着した放射能測定」を進めたことから環境検体が中心になり、後期は流通品測定に主体が移ったことで食品の比重が高くなっています。その結果、最終的に食品が全体の52.5%、環境が33.7%、土壌が13.7%といった割合になり、食品とそれ以外の割合はほぼ半々となっています。また、「生活に密着した放射能測定」のなかで土壌測定を行なったものもありますが、『みんなのデータサイト』の「土壌プロジェクト」が終了したことで、全体に占める土壌測定の割合は29年度から横ばい傾向になっています。【表2】【グラフ2】 個別に見ると、福島市内の町内会が行なう側溝の土砂上げが11月から再開された際に、放射能が堆積した汚泥に不安を覚える市民に「生活に密着した放射能測定」として、土壌放射能測定を利用してもらうことができました。

また、30 年度は新たに食品会社からの依頼がありましたが、新年度も引き続き依頼があるかは不明です。前述したとおり、ADR を行なう団体からの測定依頼が終了したことで、今後、特定非営利としての測定事業をどのように継続していくかが課題となっています。「生活に密着した放射能測定」「流通品測定プロジェクト」ともに、放射能問題に関心がある方たちからの需要があり、弊法人としても引き続きデータを蓄積していく必要があります。しかし、今後もそのための財源をどのように確保していくかが課題となっています。【表 3】【グラフ3】

最後に、9 月の測定数が著しく少ない件についての補足ですが、8 月下旬にゲルマニウム 半導体検出器が故障し、その修理に伴って一か月間弱、測定が休止したためです。

「生活に密着した放射能測定」は、『「共に生きる」ファンド』『JT NPO 応援プロジェクト』の助成金を活用させていただきました。また、「流通品測定プロジェクト」は『JT NPO 応援プロジェクト』『JIM-NET 福島基金』の助成金を活用させていただきました。

【表 1】年度別測定件数

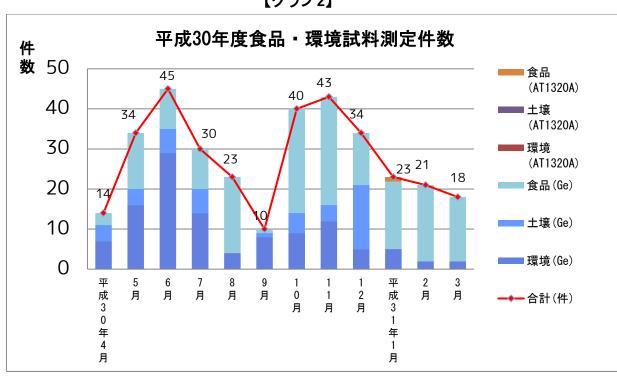
平成 25 年度	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
794	591	661	752	611	335

【表 2】平成 30 年度食品-環境試料測定件数

	環境(Ge)	土壤(Ge)	食品(Ge)	環境 (AT1320A)	土壤 (AT1320A)	食品 (AT1320A)	合計(件)
平成 30 年 4 月	7	4	3	0	0	0	14
5 月	16	4	14	0	0	0	34
6 月	29	6	10	0	0	0	45
7月	14	6	10	0	0	0	30
8 月	4	0	19	0	0	0	23
9 月	8	1	1	0	0	0	10
10 月	9	5	26	0	0	0	40
11 月	12	4	27	0	0	0	43
12 月	5	16	13	0	0	0	34
平成 31 年 1 月	5	0	17	0	0	1	23
2 月	2	0	19	0	0	0	21
3 月	2	0	16	0	0	0	18
平成30年度 計	113	46	175	0	0	1	335
平成29年度 計	367	83	149	2	5	5	611

Ge=ゲルマニウム半導体検出器、AT1320A = 簡易食品測定器(NaI シンチレーター)

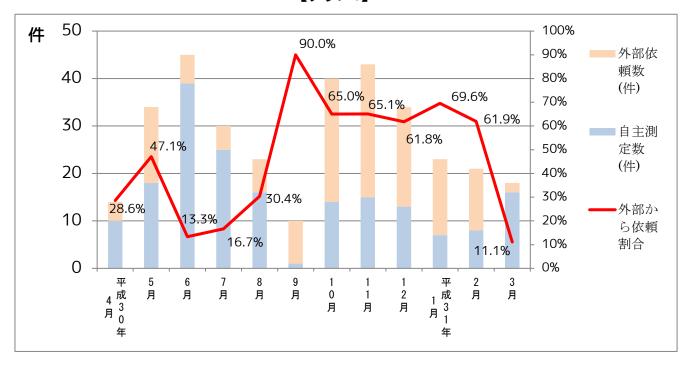
【グラフ2】



【表 3】外部依頼件数

	全測定数 (件)	外部依頼数 (件)	外部から依頼 割合	備考(主な依頼者)
平成 30 年 4 月	14	4	28.6%	「ADR 団体」「賛助会員」
5月	34	16	47.1%	「ADR 団体」「食品会社」 「賛助会員」
6 月	45	6	13.3%	「ADR 団体」
7月	30	5	16.7%	「ADR 団体」「食品会社」
8 月	23	7	30.4%	「食品会社」
9 月	10	9	90.0%	「食品会社」
10 月	40	26	65.0%	「食品会社」「賛助会員」
11 月	43	28	65.1%	「食品会社」「賛助会員」
12 月	34	21	61.8%	「食品会社」「賛助会員」
平成 31 年 1 月	23	16	69.6%	「食品会社」
2 月	21	13	61.9%	「食品会社」
3 月	18	2	11.1%	「賛助会員」
合計	335	153	45.7%	

【グラフ3】



●ホールボディーカウンター(WBC)測定事業

ホールボディカウンター測定については、平成30年度も農業者団体の測定を中心に行いました。

1. 平成 30 年度の WBC 測定実績

平成30年度の測定総数は、のべ12名となっています。その大部分が定期的に測定している農業者の方々でした。年齢的には50代以上の方がほとんどを占めています。

また、30 年度は事務所移転作業に伴う測定室改装作業のため、定期的に年二回行なっていた農業者の方々の測定が一回だけとなりました。平成 29 年度の測定から 1 年以上の期間が開いたため、測定参加者の減少傾向に拍車がかかりました。【表 4】

【表 4】

年月	WBC 事業内容
平成 30 年 11 月	ゆうきの里東和ふるさと協議会第 12 回 WBC 測定
平成 31 年 2 月	ゆうきの里東和ふるさと協議会第 12 回 WBC 結果報告

セシウム 137 が検出された方の人数は、12 名中のうち 2 名(16%)でした。なお、セシウム 134、137 がともに検出された方はいませんでした。年齢別では、引き続き 60 代・70 代の方の検出率が高い傾向にあります。

2. WBC 校正およびファントム・線源貸出事業 WBC のバックグランド校正および貸出等を下記のとおり2回行いました。【表5】

【表 5】

年月	依頼先	作業内容
平成 30 年 7 月	那須町保健センター	WBC BG校正
平成 30 年 11 月	ふくしま 30 年プロジェクト	WBC BG校正

●ふくしまくらす交流会

ふくしまくらす交流会は、29 年度から引き続く形での医師の研修会と発酵ワークショップの 二本立てに加え、27 年度~28 年度に行なった「震災後の生活について考える」を主題にした お話会を行ないました。【表 6】6 月に開催した「震災後の生活について考える」の会は、「生 活に密着した放射能測定」と連動する形だったのですが、参加者が 5 名と振るわない結果に なりました。また、医師の研修会では三回の開催で延べ 40 名の参加となりましたが、そのうち 10 月に開催した会の参加者については 4 名に留まり、開催時期により参加者数にかなりのム ラが出ました。

内容面では、「震災後の生活について考える」では、生活者の視点で話し合うことで、数字だけでは判断がつかない放射能測定結果の説明ができました。また、現在の食をめぐる問題についての話題が展開していき、残留農薬に触れるなど放射能とは別の事例にも触れることで話題の広がりも持てました。医師の研修会の感想では、主に乳幼児の子育て中の女性が参加したこともあり、山田真医師の話に「内容が素晴らしい!」「とても良いお話をありがとうございました」「今、子育てをしていての疑問に答えてくださっているので大変ありがたかった」「聞きたいことを分かりやすく詳しく教えて頂けました」など、多数の好意的な感想を得られました。また、今回の研修会は福島市教育委員会から名義後援を取り、幼稚園や小学校にチラシの配布を行ないましたので、今まで情報が届かなかった人たちにも参加を促すことができたのではないかと、後援取得を評価する声もありました。そして、発酵ワークショップは安定した参加があり、アンケートの感想も満足度の高いものが多くありました。

課題として、福島市教育委員会の名義後援を取り、市内の各小学校や幼稚園にチラシを配布しましたが、予想していたほどの告知効果は得られなかったことがあります。さらに医師の研修会の1回目から2回目の流れで、口コミで参加者があるかと期待しましたが、結果的にこれも思うような効果は見られませんでした。311から8年の時間経過は、市民にとって非常事態から「日常」へのシフトの促しがありました。311前にあった、家庭生活を成りたたせるための仕事や、子どもの部活などの送り迎えなど、相対的に、こちらが用意したイベントへの関心が低下しているのかもしれません。ただし、自治体やマスコミが行なうアンケートでは、不安と答える割合は決して低くはないのも事実です。このギャップをどう埋めて、今後のイベントの運営をデザインしていくべきか、引き続き考えていかなければならないと思います。

ふくしまくらす交流会には、『「共に生きる」ファンド』『「一食(いちじき)福島復興・被災者支援」事業』『JT NPO 応援プロジェクト』の助成金を活用させていただきました。



7月16日の会場風景

【表 6】ふくしまくらす交流会

	日にち	会場	内容	参加人数	備考
1	平成 30 年 6 月 28 日	みんなの家セカンド	「震災後の生活について考えよう - 生活に密着した放射能測定 2018 -」	5 名	講師: ふくしま 30 年プロジェクト (阿部、佐原、長谷川)
2	7月16日	アクティブシニア センター・ アオウゼ 和室	「お母さんが名医になる方法 -子どもたちのより良い成長のために、 日々できること」	16 名	講師:山田真医師
3	9月8日	カフェ・ギャラリー 風と木	発酵ワークショップ Vol.08 「~ 風と木の智恵子さんに教わる美味し い玄米甘酒 ~」	19 名	講師:丹治智恵子さん
4	10月21日	サンライフ福島 第1講習室	「お母さんが名医になる方法 -子どもたちのより良い成長のために、 日々できること PART2」	4 名	講師:山田真医師
5	平成 31 年 2 月 16 日	サンライフ福島第1講習室	発酵ワークショップ Vol.09 「漬物名人高橋トク子さん直伝 白菜キムチつくり」	12 名	講師:佐原真紀
6	3月3日	カフェ・ギャラリー 風と木	『未来に伝えたい「くらし」をかんがえる』	20 名	講師:山田真医師、 丹治智恵子さん

●勉強会

平成 29 年度から開始した勉強会では、それぞれの会で疑問や不安の解消、また、勉強会をきっかけにした副次的事業を行うことができました。木村真三准教授を講師に行なった 5 月 26 日の会では、専門家として分かることと分からないことを明確に述べる姿勢が評価されました。牛山元美医師が講師となった 8 月 5 日の会では、普段、地元の医師には聞きづらい甲状腺がんという案件で、終了後に個別にカウンセリングを受ける方がいました。また、後藤忍准教授による震災遺構をテーマとした 11 月 18 日の会では、具体的な施設として言及されたコミュタン福島や東京電力廃炉資料館への見学ツアーを後日企画し、参加者に講演の内容を実感してもらうことができました。そして、12 月 15 日の会では、講師の清水奈名子准教授の意向から、会の中で参加者が思いを語る時間を設定し、15 人の参加者の話を聞くことに 1 時間弱を割くことで、講師の話を聞くだけではなく、それぞれが語った話が絡みあう重層的な内容に発展させることができました。

また、3月9日に開催した会は、「みんなのデータサイト」から発行した『「図説」17都県放射 能測定マップ+読み解き集』を活用してのイベントということで、「いまさらきけないプロジェクト」 との共催で郡山市にて開催しました。弊法人は、県内におけるイベント開催の経験が福島市 以外ではほとんどないため、郡山市を拠点として活動する「いまさらきけないプロジェクト」に 依頼しての共催としましたが、告知などに尽力してもらうことで 76人の参加者がありました。

ただし、11 月、12 月に開催した勉強会は内容面では充実したものになったと思いますが、参加者はそれぞれ 10 名と 15 名に留まってしまいました。それぞれ、主題としたものは重要なものと考えますが、市民の非常事態から「日常」へのシフトが、勉強会においても関心の低下として影響していると思われます。交流会の項でも述べましたが、アンケートで表出する不安の割合と現実とのギャップをどうするかが引き続きの課題です。

勉強会には『「共に生きる」ファンド』『JT NPO 応援プロジェクト』の助成金を活用させていただきました。



3月9日の会場風景

【表 7】勉強会

	日にち	会場	内容	参加人数	備考
1	平成 30 年 5 月 26 日	アクティブシニアセ ンター・アオウゼ 和 室	木村真三氏勉強会 「8 年目の福島と 32 年目のチェルノブイリ」	35 名	講師: 木村真三さん
2	8月5日	サンライフ福島 大研修室	牛山元美医師勉強会 「甲状腺がんの今」	26 名	講師: 牛山元美さん
3	11月18日	チェンバおおまち 会議室	後藤忍准教授勉強会「記録と記憶」 コミュタン福島と震災遺構	10名	講師: 後藤忍さん
4	12月15日	サンライフ福島 大研修室	清水奈名子准教授勉強会 「原発事故災害とジェンダー格差」	15 名	講師: 清水奈名子さん
5	平成 31 年 3 月 9 日	郡山市 労働福祉会館 中ホール	第2弾 しんちゃんに聞こう!「いまさらき けない」ホウシャノウのはなし	76 名	講師: 木村真三さん ふくしま 30 年プロジェクト(阿部) ※ いまさらきけないプロジェクトと

●福島県内の状況を伝える、研修・交流会

福島県に関心を持つ首都圏在住者、また、首都圏への自主避難者を対象に、福島県を取り巻く最新の状況や、放射能の測定データを伝える交流会を2回行いました。【表8】

12 月の会では、専修大学の長谷川宏教授に協力してもらい、大学内の教室を会場にしたことが功を奏したようで 69 名の参加者がありました。これは、今まで首都圏で開催した交流会のなかで最も参加者が多い会です。内容面では、二部構成のうち前半は島明美氏に伊達市の放射能汚染土の除染について、他自治体との対応の違いなど現地に住む人間でないと分からない点について語ってもらいました。参加者からは、終わりの見えない放射能汚染問題について知ることができ、大変参考になったなどの感想がありました。また、後半はシンポジウム形式で島明美氏以外に自主避難を経験した女性にも登壇してもらい、福島県内に住み続けた立場、一時避難をした立場など、それぞれの立場によって多重な意見があることを、首都圏の参加者に知ってもらうことができました。

1月開催の写真展と交流会は、初日は20名、二日目は交流会も含め50名の参加がありました。写真は赤城修司氏が2018年中に福島市内で撮影したものを時系列で展示した。初日の来場者は20名ほどでしたたが、写真にある福島市内の風景を赤城氏が解説することで、来場者一人一人と対話する時間が持てました。二日目の交流会では赤城氏から、高校教師として8年前の原発事故災害に対応しつつ、個人としてできることを模索するなかで、写真で記録を残すことをライフワークにするに至った経緯を語ってもらいました。また、島明美氏からも、福島市と伊達市の自治体の対応の違いについて語ってもらい、12月に行なった交流会の流れを引き継いだ形となりました。マスメディアではほとんど取り上げられることがなくなったなかで、被災地の生活者の視点での情報発信について、非常に好評を得ることができました。



12月8日の会場風景

【表8】福島の現状を知り、語り、考える会

	日にち	会場	内容	参加人数	備考
1	平成 30 年	専修大学	「未来へつなげるために 今できること」	69 名	講師:島明美さん
	12月8日	46/7	1 XX 1 241 91 01 01 7 6 9 CC		高橋千春さん
	平成 31 年	全労済ホール			講師:赤城修司さん
2		「赤城修司個展 Fukushima Traces, 2018」	70 名	島明美さん	
	~20 日	スペース・ゼロ			尚明夫さん

「福島県内の状況を伝える、研修・交流会」は、『「一食(いちじき)福島復興・被災者支援」事業』 の助成金を活用させていただきました。

●子ども向け放射線ワークショップ

二本松市放射線専門家チーム アドバイザーの木村真三氏に講師を依頼して行いました。 木村氏は二本松市内の小学校で、毎年、放射線の授業を行なっているので、その内容を福 島市内の子どもに向けて行なってもらいました。また、この放射線ワークショップでも、「こ ども放射線ワークショップ 2018」として、福島市教育委員会から名義後援を取り福島市内 の各小学校へチラシの配布を行ないました。

内容面では、大人にとっても理解が難しい放射線の事柄を、子どもに分かるようにと放射能のことを人の食事や昆虫などに例えて説明しているので、分かりやすいと非常に好評 を得ることができました。

ただし、放射線ワークショップの当日の参加者は 11 名に留まり、子どもの参加者は 1 名のみでした。子どもたちの放射能に対しての興味については、保護者の関心の度合いに加えて、福島市の小学校の授業の確保時間の少なさも影響していると思われます。放射能について、子どもたちに学習してもらうことは大切なこととされていますが、現実には様々な要因が重なり非常に難しいことだと感じます。ここでも、市民の非常事態から「日常」へのシフトが影響を及ぼしていると思われます。

子ども向け放射線ワークショップには、『「一食(いちじき)福島復興・被災者支援」事業』の助成金を活用させていただきました。

●ホットスポットファインダー測定(空間線量マップ化)事業報告

平成 30 年度は、ホットスポットファインダー測定を 18 件行ないました。 【表 9】【図 10】

測定依頼数について 29 年度は 51 件でしたが、30 年度は 18 件と1/3に減少しました。特 に避難者からの測定依頼が大幅に減少しました。しかし、その中で少ないながらも、最近福 島県内に帰還したので測定を依頼した方もいました。

一方で、支援団体からの測定依頼は増加傾向にあります。『NPO 法人りょうぜん里山がっ こう もんもの家』からの再測定依頼や、新規事業を始めた支援団体からの測定依頼などでし た。福島市内においては、線量の低いところで外遊びを行ないたい保育園や、新規に開園す る保育園からの依頼でした。福島市外では、猪苗代町で週末開催するプレーパークや猪苗 代湖畔でイベント開催のために、また、二本松市岳温泉でのイベント会場など、放射線量が 低いと思われるが、念のためにあらためて確認したいと依頼する団体が多くありました。

分類 測定件数 支援団体 14 件 避難者 2件 保育園 2件 合計 18件

【表 9】ホットスポットファインダー依頼先分類

【図 10】ホットスポットファインダー測定場所

● みんなのデータサイト(市民放射能測定データサイト)

https://minnanods.net/

参加測定室 全国30の放射能測定室

食品・環境データ数 17,265 件 (弊法人登録データ数 3,621 件) 平成 31 年 3 月 31 日現 在

土壌データ数 3,437 件 (弊法人登録データ数 355 件) 平成 31 年 3 月 31 日現在 高濃度土壌データ数 107 件 (弊法人登録データ数 0 件) 平成 31 年 3 月 31 日現在

弊法人は、市民による放射能測定のデータの共有や連携を目指して立ち上げた『みんなのデータサイト」に、幹事団体の一つとして参加しています。

平成 30 年度は、平成 26 年から 3 年をかけて行なった「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」の集大成として、『「図説」17 都県 放射能測定マップ+読み解き集』【図 11】を刊行しました。これまでに公開してきた汚染の濃淡を色別に示した地図に詳細な解説を加え、食品汚染と土壌汚染の比較や個別の食品の汚染の年次推移、チェルノブイリ事故の避難と保障についての区分と日本の区分基準の違いを明らかにした比較表の改良、放射能に関する基礎知識の収録など、国内外で他に類を見ない詳細な情報を網羅しました。200 ページ、すべてカラーで A4 サイズの大判で、自分たちで出版社を立ち上げ自費出版をしたところ大きな反響を得て、初版から 4ヶ月で累計 1万6,000 冊を発行するに至りました。これまで東京電力福島第一原発事故に関心を寄せていなかった人々も含め、あらためて事故について関心を寄せた結果が現われたと思われます。それらの人々が本書を手にしたことで、原発事故によって何が失われ、何がもたらされたのかを知り、自らが考えるきっかけとなったのではないでしょうか。

そして、全国の避難者団体などにも寄贈したことで、回覧して見ていただけるようになりました。また、勉強会の項でも触れましたが、この書籍の編集執筆に関わった測定室が主体となって、各地での「読み解き講座」を実施しました。



【図 11】 『「図説」17 都県 放射能測定マップ+読み解き集』

●子どもの自然体験と交流事業

平成30年度も29年度から継続し、山形県にある「大江町山里交流館やまさぁーベ」の協力のもと、田植え・草取り・稲刈りを中心とした農業・自然体験を行ないました。【表 13】

震災後、外遊びや農業体験をする機会が減った子どもたちに、田植え、草取り、稲刈りなどの米作りの苦労を知ってもらうことで、食の大切さを感じることができる体験になりました。田植えの会では里山で山菜採りを行い食すことができ、自然の恵みを体全体で味わうことができました。草取りの会ではリバートレッキングが大人気で、体全体で川の水の気持ち良さを感じていました。稲刈りでは、前半は鎌で手刈りしましたが、後半は機械(バインダー)で刈り取りを行ないました。稲刈り自体、とても大変な作業ですが、大勢で協力することで思ったよりも早く終わることができ、子どもたちに協力することの大切さを感じとってもらうことができたと思います。

そして、震災時の記録をアニメ化した、浪江町消防団物語「無念」の鑑賞会を行ないました。 た。 震災後 7 年が経ち、この自然体験事業に参加した小学生たちも 震災時の記憶がない 子どもがほとんどですが、映像を真剣に観ていたことから、何か心に訴えかけることがあったと思われます。

子どもの自然体験と交流事業には、『東日本大震災 草の根支援組織応援基金』の助成金を活用させていただきました。



田植え風景



稲刈り風景

【表 12】主催した子どもの自然体験・交流事業

日にち	場所	参加人数	主な活動内容
		(スタッフ含む)	
6月2日~3日	山形県大江町	27 名	田植え、山菜採り、
			里山トレッキング
6月30日~	山形県大江町	8名	草取り、リバートレッキング
7月1日			
10月6日~	山形県大江町	16 名	稲刈り、アクアリウム作り
7日	山形泉入江町	10 24	他かり、アンテリリムTFリ

●冊子·通信発行

◆「ふくしま 30 年プロジェクト通信」 発行 4 回 (Vol.35、36 は 200 部前後、Vol.37、38 については 300 部)

冊子・通信作成及び発送には『JT NPO 応援プロジェクト』の助成金を活用させていただきました。

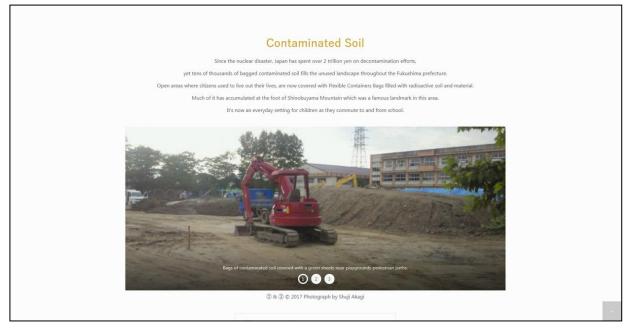
●ふくしま 30 年プロジェクトの海外 (英語) 版サイト

より広い情報発信を目指すために、平成 29 年度に作成した海外版のパンフレットを基にして海外版サイトを作成しました。海外版パンフレットは紙媒体であるために掲載できる情報量に制限がありましたが、インターネット上のサイトではそういった制限がないので、スタッフの声を多くし、海外の閲覧者に身近に感じてもらうことを狙いました。特に 30 年度からは佐原真紀が理事長となりましたので、彼女が福島で生活するために、母として放射能測定の場に携わったという部分をテキスト化して掲載し、アピールポイントとしました。

海外版サイト作成には、『「一食(いちじき)福島復興・被災者支援」事業』の助成金を活用させていただきました。

【図 13】海外版サイト





URL: https://en.fukushima-30year-project.org/

●講演等

平成 30 年

7月7日(土) 「福島にくらし 子どもを育てる」講演 主催:名古屋YWCA (佐原)

7月29日(日) 「第4回『原発と人権』交流集会 in 福島」講演 主催:原発と人権ネットワーク (阿部)

9月26日(水) 「フクシマコミュニティづくりプロジェクト」 主催:WCRP日本委員会 (佐原)

11 月 4 日(日) 「どう伝える?福島のこと」講演 主催: FoE Japan・ハインリヒ・ベル財団 (清水)

●書籍・物品販売・測定器レンタル事業

書籍販売売上 193,751 円、物品販売売上 22,128 円 測定器レンタル利用者数 のべ 2 人

●会員数

平成 30 年度末の時点で正会員は 13 名と 2 名減となりました。また、賛助会員については 80 名となり、92 名から 12 名の減少となっています。【表 14】【図 14】 賛助会員の増加を目指 してきましたが、会員となった方が引き続き応援を継続していただくのが難しいという状態が 続いています。

弊法人を応援したいということで賛助会員となる方に対して、それ以後も引き続き応援したいと思える魅力をどうやって表現していくか。模索を続けなければなりません。

【表 14】会員数推移

年度	正会員(人)	賛助会員 (人·団体)
平成 25 年度	16	58
平成 26 年度	16	116
平成 27 年度	15	138
平成 28 年度	15	104
平成 29 年度	15	92
平成 30 年度	13	80

【図 14】

